

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### A. コースワークの充実・強化

#### ②分野横断的な科目群、副専攻科目群等の充実

##### ●お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科比較社会文化学専攻

##### 「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

日本文化の総合的な理解力を養成する意図で、分野横断的な「日本文化論」と「文化マネジメント」の2つの副専攻科目群を設けた。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

副専攻「日本文化論」では、多様な日本文化と日本的思惟方法についての理解を促すために、必修科目「日本文化論」に加えて、思想、歴史、社会、文学、言語、民俗学、服飾、芸術（美術、音楽、舞踊）など、幅広い科目からの単位取得を可能にした。又、副専攻「文化マネジメント」では、文化資源の地域社会における活用を図る上での要点を学ぶ必修科目の「文化マネジメント論」と、それを基盤として思想、歴史、地理、文学、言語、民俗学、服飾、芸術（美術、音楽、舞踊）、教育、人類学に互る多様な分野に選択科目を設定し、更に、本学所蔵の史・資料を活用して展示会を企画運営する演習を通じてマネジメントの実務を学ぶ「文化マネジメント論演習」科目を設けた。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

副専攻「日本文化論」の履修によって、大学院終了後に国際的に社会貢献することが期待される人材（留学生含む）の日本文化と日本的思惟方法に対する適切な理解を深めることができたと考える。それを通じて、今後の国際社会の日本理解の水準の向上に資すると共に、多様な文化の共生の必要性への意識の高まりが期待される。又、文化に対する深い考察と見識を備えた上で多様な文化活動のマネジメントを行う人材の養成を図ることを目標とした副専攻「文化マネジメント」は、その履修者の中からは、大学外においても評価を受ける実績を上げる者も出た。

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### E. 学習・研究環境の改善

#### ②国内外の学会発表、実習等に対する経済的支援の充実

##### ●お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科比較社会文化学専攻

##### 「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

海外の提携大学・研究機関との周到的な連携の下で、「海外インターンシップ」「海外アカデミック・ディスカッション」「学生海外調査研究」を実施。3年間で延べ62名の大学院生を海外での実習・学習のために派遣した。更に、学生と教員と共に海外の提携大学に派遣して3年間で計10回の「国際共同ゼミ」(66名の学生を派遣)を実施した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

学生の海外派遣に当たっては、既存科目(「英語アカデミック・プレゼンテーション」等)を活用して事前教育を徹底し、又、「海外インターンシップ」及び「海外アカデミック・ディスカッション」においては実習先の協力研究機関の教員による評価表を、「学生海外調査研究」においては報告書及びそれに対する指導教員の評価書を提出させた。一貫性のある形で事前教育、実習、現地評価、事後教育を行い、単位化のプロセスを経ることで、学生個人においては一つの学習課程としての意義を強め、また大学院教育の既存のカリキュラムとの関係をとった。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

海外での実習経験を深めることで、学生が国際的な視野と水準を意識した研究と学位論文の執筆が促進されたと共に、学生の国際的な場でのプレゼンテーション能力の向上にも資するところが大きかったと考える。これらの成果は、学生の報告書の記述から推測されるだけでなく、国内では入手不能の資料をも用いた学位論文が増加しつつある傾向にも表れている。